



はつかいち人 vol.1
宮島張り子職人

たなかしろう
田中司郎さん

技法を磨き、
作品に温もりを宿す。

黙々と張り子に絵付けをする田中司郎さん。宮島張り子を始め、今年で40年。積み重ねてきた経験と技で張り子に彩りを加えていきます。

来年の干支製作に奮闘中

宮島でただ一人の張り子士の田中さん。大学在学中から張り子の研究を始め、全国の張り子を収集しながら、宮島の民芸品としての地位を確立しました。製作される張り子は、フクロウなどの鳥や亥の子祭りの面、そして干支の動物です。来年の干支は猿。毎年製作する干支の張り子は約千。夏場からデザインなどの準備を始め、製作は現在佳境を迎えています。

「型とりから紙を張り、胡粉を塗り、絵付けをする。この一連の工程は、すべて手作業です。できあがる作品は、微妙に表情が変わるため1点もの。正月飾り、民芸品として皆さんに喜んでもらえるものを作っています。色使いやデザインは、毎回試行錯誤の連続だと話します。」

「同じものが受け入れられていくとは限りません。これからの新たな挑戦をしていきます」と田中さんは力強く話してくれました。